



# 湯之谷小学校だより



令和7年6月30日

## 学び続々！

6月があっという間に過ぎていきました。各学年では特徴的な学習が進んでいます。

1年生は生活科の学習で「あくしゅだいさくせん」を行いました。休み時間のたびに1年生が教職員を訪ねては、「今お時間よいですか？」と話しかけ、サインをもらい、握手をします。その一連の取組を何回も繰り返すことで、初めて話しかける人に対しての話し方を学んだり、コミュニケーションの喜びを体験したりしました。とても上手に話しかけられるようになりました。



2年生の植えた野菜の苗が実をつけています。駐車場脇の畑では、オクラやキュウリ、トマト類、茄子があっという間に大きくなり、収穫できるようになっています。毎朝水をあげたり、観察カードを書いたりしながら野菜の成長を見守っています。「カラスがきゅうりをねらっているけど、どうする？」とみんなで考えて、その対策に取り組んでいます。

3年生は初めて墨と筆を使って字を書きました。墨を含ませた大筆で紙に書いていくことは子どもたちにとって新鮮な感覚だったようです。まずは様々な線を書いて大筆の扱い方を学んでいます。社会科の校外学習で「深雪の里」に、お店や働いている方の工夫などをインタビューしてきました。百聞は一見にしかず、多くのことを学びました。



4年生は福祉学習に力を入れています。魚沼市社会福祉協議会の方を講師にお招きし、高齢者の体の動かしづらさを体験的に学んだり、パラスポーツを楽しんだりしました。世の中には様々なハンディキャップを持つ人がいること、そのハンディキャップを乗り越えて生活していること、自分たちができることを考えることが大切なことについて体験的に学んでいます。

5年生は尾瀬学校の準備を進めました。自分たちの行く尾瀬のことを班ごとに調べてまとめました。本番は7月2、3日です。1日目は奥只見湖を遊覧船で渡り、沼山峠から尾瀬に入り、見晴にある宿舎、弥四郎小屋を目指します。2日目は燧ヶ岳を背に、正面に至仏山を見ながら尾瀬ヶ原を横断します。総距離20kmの踏破を目指します。



6年生は修学旅行で佐渡島に行ってきました。2日間とも快晴に恵まれ、青い日本海をフェリーで渡り、世界遺産佐渡金山の見学を筆頭に、たらい舟、シーカヤック、砂金採り、イカの一晩干しづくりなどの体験活動を通して、また、佐渡の幸をたくさんいただいて五感を通じて学んできました。また、縦割り班での体力テストでは、リーダーぶりを発揮していました。

# いじめ見逃しゼロスクール集会を開催しました

23日は児童会の主催で「いじめ見逃しゼロスクール集会」を行いました。「いじめ見逃しゼロスクール集会」というのは新潟県独自の取組で、いじめ行為はもとより、いじめを見逃すこともなくそうという意味が込められています。この日は、クラスごとに話し合っ決めていじめ見逃しゼロに向けたクラス目標を発表し合いました。「いじめたい」という気持ちは、誰の心の中にも芽生える可能性のある、非常に複雑な感情です。 **〈参考〉いじめたい気持ちが芽生える背景**



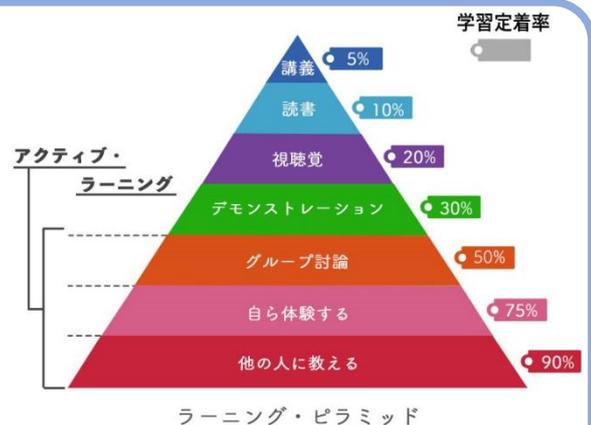
自己肯定感の低さ	自分に自信がないため、他人を貶めることで一時的に自分の価値を高めようとする。
ストレスや不満	日常生活で抱えている不満やストレスを、弱い立場の人に向けて発散しようとする。
権力欲	集団の中で優位に立ちたい、支配したいという欲求がある。
嫉妬	他人の成功や幸福に対して強い嫉妬心を抱き、相手を苦しめたいと思う。
不安や恐怖	自分がいじめの標的になることを恐れ、先回りして他人を攻撃することで身を守ろうとする。
集団心理	周囲がいじめを行っている状況で、同調圧力に逆らえず、自分も加わってしまう

しかし、私たちには実際に行動に移す前に、自分の気持ちをコントロールするチャンスがあります。自分の心の中に生まれる「いじめたい感情」そのものを否定することは難しいので、いじめたい気持ちが湧いても、「いじめは悪いことだ」「人を傷つけてはいけない」という倫理観や理性を働かせ、自分で行動を抑制することができる術を身に付けられるように、さまざまな機会をとらえて子どもたちの心を養っていきたいと考えています。

## 「わかる」ことの意味

「ラーニング・ピラミッド」なるものがあります。これは学習者の学び方と、その学習の定着率をピラミッド状の図で示したものです。この図によると、「講義を聞く」ことが5%の定着率に対して、「他の人に教える」は定着率が90%にアップするということです。このことからすると、「説明できる、他の人に教えられる」状態が「わかる」ということだと言えます。例えば、『「親」は「木の上に立って見る」ような存在だから、この漢字になるんだよ。』と誰かに話せたり、「3×4というかけ算の意味は、1袋に3つ入ったリンゴが4袋あるという意味なんだよ」と説明したりできる状態です。

学校ではより勉強が「わかる」状態に近づけるように、「アクティブ・ラーニング」に力を入れて、授業改善に取り組んでいます。教師の話だけでなく、仲間と対話をし、体験活動で得られたことを生かし、学びを他の人に教える活動を重視していきます。何より、子どもが「もっと知りたい、やってみたい」「自分で学びたい」となるように努めてまいります。



学校ホームページ更新しています。ぜひご覧ください。→

